

RKF400

取扱説明書

S 010310

このたびはシブオカの冷風機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- お使いになる前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、製品を正しくお使いください。
- 取扱説明書は、お使いになる方がいつでも見ることができるところに大切に保管してください。

まえがき

◆ この取扱説明書には、この製品を安全に、正しくお使いいただくため、必ずお守りいただきたい注意事項が表示されています。その注意事項は△危険、△警告、△注意に区分されています。表示内容をよくご理解いただき本文をお読みください。

危険 この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が死亡、重傷を負う危険、又は火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を表示しています。

警告 この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が死亡、重傷を負う危険、又は火災の可能性が想定される内容を表示しています。

注意 この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を表示しています。

※ 「△注意」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

1 特に注意していただきたいこと

安全のため、必ずお守りください。

* 下記の項目は、この製品をお使いいただく上での重要な安全事項が書かれています。ご使用前に必ずお読みください。

△危険

アースは必ず取り付けてください。

- 感電防止のため、アースは必ず取り付けてご使用ください。
- アース線は、ガス管、水道管、避雷針用アース線、または電話のアース線に接続しないでください。
- アースが不完全な場合は、感電のおそれがあります。アース線は、アース接続ねじに確実につないでください。

△警告

1. 水分のかかる場所での使用禁止

雨水、雪などのかかる場所では使用しないでください。また、ぬれた手でスイッチを操作しないでください。感電するおそれがあります。

2. 回転物への接触禁止

吹出口や吸込み口に指や棒などを絶対に入れないでください。吹出口側はファンが高速回転し、特に危険です。

3. 改造使用の禁止

改造して使用しないでください。故障・火災等の原因になり危険です。

△注意

1. 換気必要

換気設備の十分な空間でお使いください。締め切った狭い空間では、湿度が過度に上昇することがあり、冷却効果は得られず、周辺の機械器具に湿気による錆などを発生させる可能性があります。強制換気と併用すれば、より効果があります。

2. 閉塞危険

本体の吸込み側は十分に空間をとってください。(80cm以上)
吸込み側を壁面その他の障害物に近づけすぎると過負荷の原因となり、運転音が高くなったり、モータ損傷の原因となります。

3. 傾斜設置での使用禁止

本体は水平に保ってください。水平に設置(5度以下の傾き)しないと、漏水の原因となる場合があります。

4. 給排水配管接続の実施

給排水配管接続は確実に行ってください。接続が不十分だと、漏電または、周囲をぬらす原因となります。設置場所は、万が一に備え、なるべく漏水の被害を受けにくい場所を選んでください。

5. 水道水以外の使用禁止

水道水をご利用ください。井戸水、工業用水を使用すると臭気発生の原因となります。

6. 残留水の放置禁止

日々の運転終了時には必ず残留水を排出してください。タンク内の水をそのまま放置すると、腐敗や微生物増殖などにより、臭気発生の原因となります。

7. 異常時使用禁止

異常を感じたとき(異音、漏水、焦げ臭い等)は、すぐに運転を停止してください。異常のまま運転し続けると、重大な故障、感電、火災の原因となります。

8. 運転中移動禁止

運転中は本体を動かさないでください。循環水がタンクからこぼれ、漏電したり、床面をぬらすおそれがあります。

9. 電源コード破損注意

電源コードは、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、挟み込んだり、加工しないでください。また、重いものを載せるなど破損の原因となることは避けてください。火災・感電の原因となります。

10. 電気部品への水掛け禁止

電気部品に水をかけないでください。給水する時や冷却エレメントなどの掃除などのとき、電気部品に水がかからないようご注意ください。電気部品の絶縁が劣化し、感電の原因となることがあります。

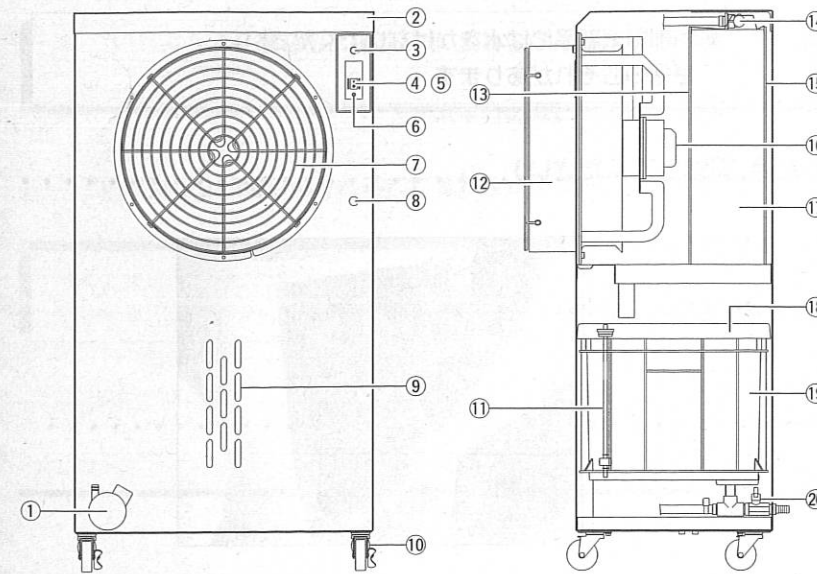
11. 前方設置品の防錆注意

吹出口から吹き出す冷風は湿気を帯びているため、吹出口の前方には錆やすいものは置かないようにしてください。

12. 周囲環境の注意

工作機械等で作業されているような油が浮遊している環境でお使いになる場合は、循環水に油が混じり使用できなくなるおそれがあります。

2 各部のなまえ



- ① ポンプ
- ② 天板
- ③ 冷風ランプ
- ④ スイッチ
- ⑤ 基板(スイッチの裏側)
- ⑥ 漏電テストボタン
- ⑦ ガード
- ⑧ 別売部品用コード挿入口
- ⑨ 水位検知窓
- ⑩ キャスタ
- ⑪ 水位スイッチ
- ⑫ 吹出口
- ⑬ 水フィルタ
- ⑭ 散水管
- ⑮ 吸込フィルタ
- ⑯ 送風ファン
- ⑰ 冷却エレメント
- ⑱ 給水口
- ⑲ タンク
- ⑳ 排水バルブ

安全装置の説明

過負荷漏電保護 (スイッチに内蔵)	電気系統に過電流が流れたり、漏電すると、電気回路を遮断し、自動的に停止します。 作動状態：全停止します。
水切れ検知 (水位スイッチ)	タンクの水量が減少すると、水切れ検知装置が作動し、ポンプの故障を防止します。 作動状態：タンクの水量が減少すると、冷風ランプが消灯・点灯を繰り返し、数分後には冷風ランプが消灯・ポンプが停止します。

3 初めてお使いになる方へ

3-1. 本体設置

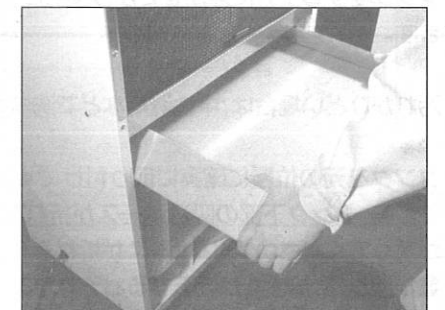
● 据付にあたっては下記の事項に注意しておこなってください。

- 1 換気設備が十分な場所で使用してください。不十分であると、湿度が過度に上昇し、冷房効果が低下します。
- 2 開放的な場所で使用してください。締め切った狭い空間で使用すると、湿度が過度に上昇し、冷房効果が低下します。
- 3 水平に設置(5度以下の傾き)してください。設置面が傾斜していると、水がこぼれて漏電の原因になったり、ポンプの揚水不良の原因となります。
- 4 吸い込み側は、80cm以上あけてください。背面部の吸い込み空間が少ないと、モータ過負荷の原因となります。
- 5 給排水は水が漏れないように丁寧におこなってください。
- 6 室外の雨などがかかる場所では使用しないでください。感電の原因になる場合があります。
- 7 本体には移動用のキャスタがついています。運転中はキャスタのストッパを必ずかけてください。

3-2. 運転準備

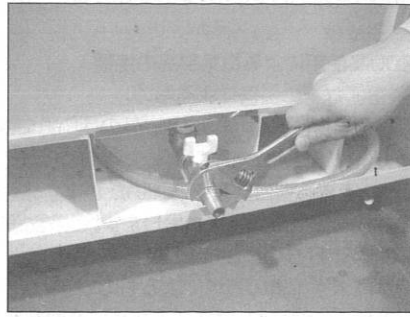
★ 開梱(輸送時の固定用梱包材の取り外し)

- 1 梱包をあげてから、吸込フィルタの固定用テープを取り外してください。
- 2 タンクの上にあるタンクの固定用ダンボールを取り外してください。ダンボールを取り外さないとお水があふれてくるおそれがあります。



★ 排水配管

- 1 付属品の排水ニップルを排水バルブにねじ込みます。



★ 給水方法

- ⚠ 補給水は必ず水道水をお使いください。

井戸水や工業用水を使用すると、冷却ユニット内で藻や細菌が増殖しやすく、冷却効率が低くなったり、臭気発生の原因となるおそれがあります。

- ⚠ 配管接続は確実に行ってください。

接続が不十分ですと、漏電のおそれや周囲を濡らすなど思わぬ事故につながる可能性があります。

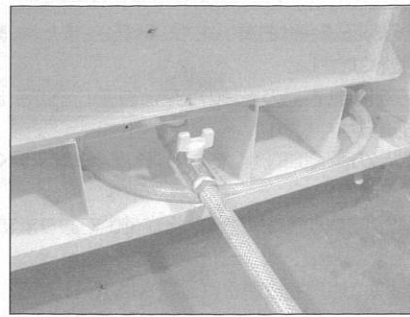
- 給水方法には次のようなものがあります。いずれかをお選びください。

- ⚠ 給水前に排水バルブが閉じていることを確認してください。

ポリタンクで給水します。

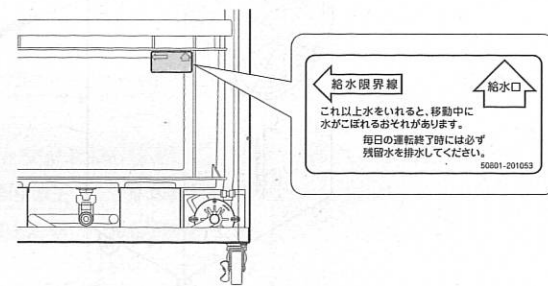


- 2 排水ニップルに市販の内径15mmのホースを差込みます。

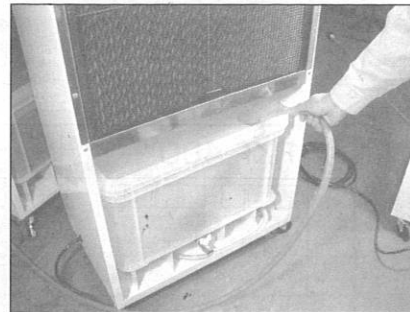


- ⚠ 給水量に注意してください。

給水口から「給水限界線」以下になるように給水してください。「給水限界線」以上になると本体の移動中にタンクから水があふれるおそれがあります。



給水ホースで給水します。



自動給水装置(別売部品)を取り付ければ、毎日の給水の手間が省けます。

- 2 スイッチを「入」にします。ファンとポンプが作動して送風が始まります。冷風ランプが点灯しない場合は、タンクの水量が不足しています。給水してください。

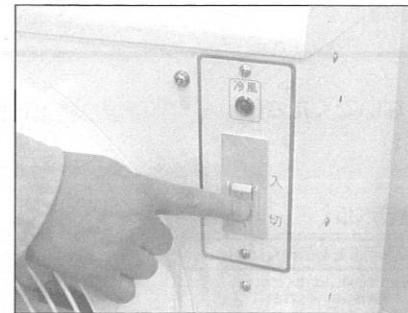
- 3 ポンプ作動とともに、本体上部の散水管からの散水で本体の後側にある冷却エレメントが徐々に濡れてきます。運転開始後15分位で冷房運転になります。タンクの水量が残りわずかになると、冷風ランプが消灯・点灯を繰り返し、数分後には消灯して、送風運転になります。給水してください。

★ 運転時の注意

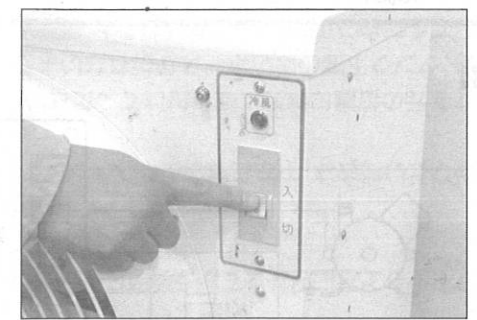
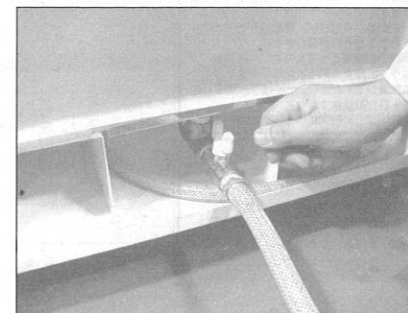
- 操作手順の各段階で、異常な振動や音が出たり、過負荷漏電保護装置が作動する(スイッチが自動的に「切」になる)ときは、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて点検してください。
- 明らかに本体部分の異常と思われる場合、お買い求め先へご連絡ください。

★ 運転終了

- 1 スイッチを「切」にして停止します。



- 2 排水バルブを開いてタンク内の水を排水します。



- 運転中本体を動かすと漏水するおそれがあります。
- お使い初めには冷却エレメントの素材(紙)のにおいがすることがありますが、しばらくするとなくなります。

- 3 冷却エレメントを清潔に保つために、排水が完了してから、スイッチを「入」にして送風運転を15分以上おこなってください。

- 4 スイッチを「切」にして停止します。

- 5 排水バルブを閉じます。運転中に排水バルブを開けるとポンプが空気を吸込み、水を循環できなくなります。



4 使用方法

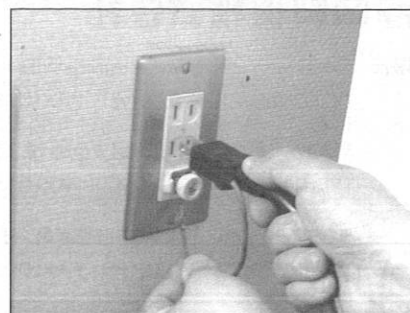
4-1. 運転方法

★ 運転前チェック(電源を切ったままでチェックしてください)

- 本体が水平で、確実に固定されていますか?
- 電気系統の各部の接続が安全確実に行われていますか?
- 本体または給排水管から水漏れがありませんか?

★ 運転の手順

- 1 電源プラグをコンセントに接続してください。感電防止のため、アースは必ず取り付けてご使用ください。



4-2. 使用時の注意事項

★ 換気を十分に

- 本体は水を気化して空気を冷やすため、室内湿度を上げる方向に働きます。換気の不十分な場所では湿度が過度に上昇し、冷房効果を低下させ、周辺の機械器具に湿気による錆などを発生させる可能性があります。
- 窓や扉は、十分に開け外気の出入りを容易にしてください。換気扇などと併用すると効果的です。
- 周辺の湿度があまり高くなりすぎますと、冷房効果が得られなくなります。そのような時にはタンク内の水を排水して、送風運転でお使いください。

★ 運転終了時は排水と乾燥を

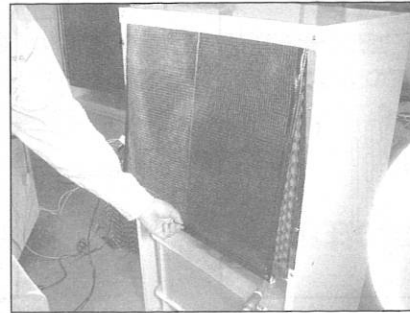
- 吸い込み空気中には様々な塵埃が浮遊し、冷却エレメントに付着しますが、これらはエレメントの自己浄化作用により洗い流されますので、タンクの水は雑菌が増加します。したがって、タンクの水は、日々の運転終了後には必ず排水してください。
- 排水後、スイッチを「入」にして15分位送風運転してください。冷却エレメントが強制乾燥され、冷風の臭いの原因となる雑菌の増殖を防止できます。

5 点検方法

- 注意**
- 点検、清掃作業の前に電源プラグを抜いてください。感電のおそれがあります。
 - 内部電気部品には水をかけないでください。感電のおそれがあります。

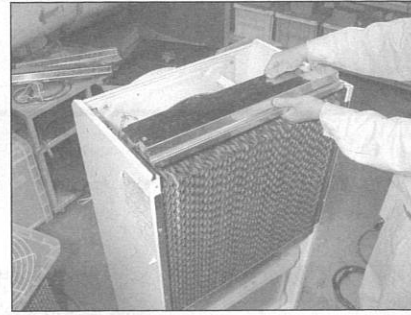
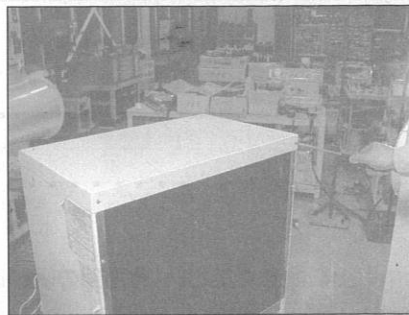
5-1. 吸込フィルタの掃除 (汚れが目立つようになった時、実施してください).....

- 1 吸込フィルタを手前に引き抜いて、エアブローします。
- 2 汚れがひどい場合は、中性洗剤などで洗浄します。汚れが取れない場合は、交換してください。
- 3 吸込フィルタを元の位置に確実に取り付けてください。

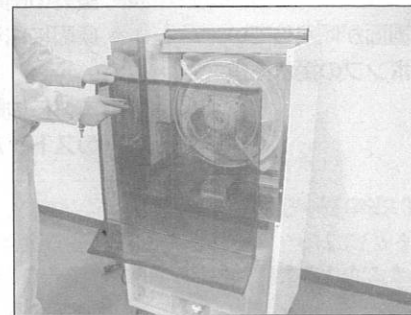


5-2. 冷却エレメント・水フィルタの掃除 (汚れが目立つようになった時、実施してください).....

- 1 天板の固定ネジを外して、天板を取り外します。
- 2 散水部を取り外します。
- 3 冷却エレメントの上部を手前に倒して、斜め上に取り外します。水フィルタも手前に取り外します。

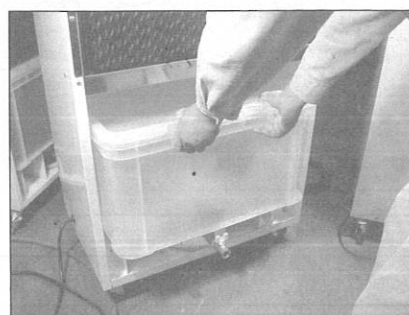


- 4 各々をエアブローします。汚れがひどい場合は、中性洗剤などで洗浄します。汚れが取れない場合は、交換してください。
- 5 各々を元の位置に確実に取り付けてください。



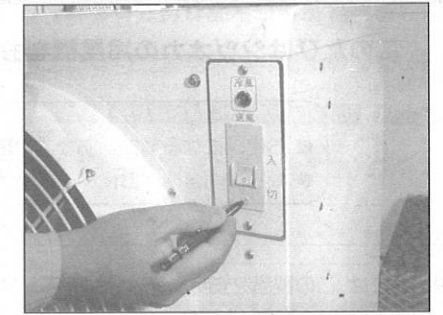
5-3. タンクの掃除 (2週間に1回は、実施してください).....

- 1 タンクを少し上方に浮かせてから手前に引き出します。
- 2 汚れがひどい場合は、中性洗剤などで洗浄します。
- 3 タンクを元の位置に確実に取り付けてください。この時、タンク下部の吸込ホースが折れないよう注意してください。吸込ホースが折れると、循環水量が減り、冷却性能が低下するおそれがあります。



6 定期点検

- 定期的な保守、点検は長時間効率良く快適にご利用いただくためには是非とも必要です。吸込フィルタや冷却エレメントの汚れ状況を見ながら適宜おこなってください。早めに洗浄すれば汚れは簡単に取り除け、冷房効果も維持されます。
- シーズン再開時にはスイッチに内蔵されている漏電遮断器が動作することを必ず確認してください。具体的には、運転中に、スイッチの下にあるテストボタンを押すと、スイッチが自動的に「切」になることを確認してください。
- 少なくとも、シーズン終了時、再開時には必ず実施してください。



7 故障・異常時の処置

下表の処置方法が「販売店に連絡」の場合、または、処置方法に従って処置しても具合の悪い場合は、お買い求めの販売店、または、弊社のお客様相談窓口へお知らせください。その際に、製品の異常の状態と製品の型式名、製造番号をお知らせください。

現象	原因	処置方法		
スイッチを入れてもファンやポンプが作動しない	主電源が入っていない	主電源を入れる。		
	本体のスイッチ (過負荷漏電保護装置) が作動	回路の短絡	販売店に連絡する。	
		ファンモータ過負荷または故障		
	電圧降下	電気工事店に連絡する		
風量が少ない	吸込フィルタの目詰まり	吸込フィルタの掃除をする。		
	冷却エレメントの目詰まり	冷却エレメントの掃除をする。		
吹出し空気が冷たくならない	冷風ランプが点灯する	ポンプ動作不良	販売店に連絡する。	
		水フィルタの目詰まり	水フィルタの掃除	
		本体内通水部分の目詰まり	販売店に連絡する。	
	冷風ランプが点灯・消灯を繰り返す	吸込ホースの折れ	吸込ホースの折れを直す	
		吸い込み周辺空気の湿度が高すぎる	換気不足 天候不良で室内外ともに湿度が高い	窓や扉を開け、充分換気を行う。 天候不良、夜間などで室内湿度が高いときはファンのみ運転する。
		タンクの水位が低すぎる	給水する	
本体からの水漏れ	ニップルと給水ホースとの締付け不良(自動給水の場合)	漏水部の接続をやり直す。		
		排水系統の不良	部品の締付け不良 パッキンの不良 部品の破損	パッキンを取り替える。 販売店に連絡する。
	本体が水平に保たれていない	本体を水平にする		
	振動や騒音の発生	ファンまたはファンまわりの不良、部品締付け不良 ファンのアンバランスまたは破損	増締めまたは補修をする。 販売店に連絡する。	
冷風に不快な臭いがする	冷却エレメントに雑菌が繁殖している	冷却エレメントを交換する。		

8 仕様

型式	RKF400	タンク有効容量 (ℓ)	38
冷房能力 (kW)※	3.6/4.1	連続使用時間 (h)※	7.2/6.3
電源	単相100V 50/60Hz	安全装置	過負荷漏電保護装置・水切れ検知装置
消費電力 (50/60Hz) (W)	187/229	運転音 (dB(A))	59/63
風量 (50/60Hz) (m³/min)	35/40	外形寸法 (高さ×幅×奥行mm)	1,177×633×526
水蒸発量 (50/60Hz) (ℓ/h)※	5.3/6	質量 (kg)	48

※ 吸い込み空気が35℃、50%RHの条件の場合を示します。冷房能力と連続使用時間は、使用場所の環境条件により変動します。例えば、温度が高く、湿度が低いほど水の蒸発量が増加しますので、冷房能力は増加しますが、連続使用時間は短くなります。

